

区分：（続報）

号機	7号機	
件名	気体廃棄物処理系の高感度オフガスモニタの指示値上昇について（続報）	
不適合の概要	<p>7号機は定格熱出力一定で調整運転中ですが、7月23日午後0時30分頃、気体廃棄物処理系^{*1}の高感度オフガスモニタ^{*2}の指示値にわずかな上昇傾向が認められました。このため、記録を確認したところ指示値は10時40分頃から上昇していることが確認されました。燃料漏えいの可能性も考えられるため、監視を強化しています。</p> <p>ガス状の放射性物質については気体廃棄物処理系で減衰処理されており、排気筒モニタ^{*3}の指示値に変動は見られないことから、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>なお、本事象は法律に基づく報告対象ではありません。</p> <p>また、排気筒モニタのデータは当発電所のホームページで公表しております。（7月23日14時お知らせ済み）</p> <p>高感度オフガスモニタの指示値は通常値の0.7cps^{*4}から最大で4.1cpsまで上昇した後、午後2時頃、一旦通常値レベルに下降し、午後3時47分現在で1.0cpsとなっておりますが、現在、監視強化を継続しております。</p> <p>また、気体廃棄物を手分析した結果、通常0.6～1.0Bq/cm³のところ0.8Bq/cm³でした。</p> <p>*1：気体廃棄物処理系 復水器内の真空維持のため、復水器内で凝縮できなかった放射性ガスを抽出して減衰処理し、排気筒から放出するための系統。</p> <p>*2：高感度オフガスモニタ 燃料棒の被覆管にあいた微小な孔から極微量なガス状の放射性物質が原子炉冷却材中へ漏れ出すような事象を早期に発見する目的で補助的に設置されたものであり、通常の気体廃棄物処理系の監視は、これとは別に設置されている放射線監視モニタ（復水器と活性炭式希ガスホールドアップ塔の間に設置されており、復水器から抽出されたガスには、極微量の放射性物質が含まれているので、その放射線を監視するための機器）により監視している。</p> <p>*3：排気筒モニタ 発電所から外部に排気する空気中にガス状の放射性物質が含まれているかどうかを監視するとともに、放射性物質が含まれている場合には、その濃度を測定するもの。</p> <p>*4：cps（カウント・パー・セカンド） 単位時間（秒）あたりに測定される放射線の数。</p>	
安全上の重要度 / 損傷の程度	<p>< 安全上の重要度 ></p> <p>安全上重要な機器等 / その他設備</p>	<p>< 損傷の程度 ></p> <p>法令報告要 法令報告不要 調査・検討中</p>
対応状況	原子炉水の手分析結果については、明日わかり次第お知らせします。	